



はつらつ 通信



Vol. 125
2014.7.1

●発行 医療法人北志会 札幌ライラック病院
●編集 はつらつ通信局

人工呼吸器ケアの新委員会

人工呼吸器ケア検討委員会、本格始動

医療機関では、さまざまな職種がチームとなって、患者さまの治療とケアにあたっています。医療の質を上げるためには、この部門の垣根を越えて、横断的に問題を見つけ解消していく活動の継続が大切です。

その機能を促すしくみのひとつに院内委員会があります。通常の業務とはまた別に会議や書類作成などを行う委員会活動ではマンパワーの絞り込みが必要となるため、院内委員会の構成からその医療機関が何を重要視しているかが見えてきます。

本紙では、褥瘡予防ケア委員会とNST委員会による合同会議（Vol.114・2011年11月）などの委員会活動を通して、札幌ライラック病院の特色をお知らせしてきました。今号では、今春本格的に活動を開始した人工呼吸器ケア検討委員会を取り上げます。

患者さまとご家族のために着実な一歩を

新委員会設置の背景には、積極的に受けて入れている人工呼吸器装着の患者さまとご家族に、「ライラック病院を選んでよかった」と思っていただけの療養環境をつくり、満足度を高めたいという強い意欲がありました。人工呼吸器ケアの取り組みと、新委員会に期待される役割をご紹介します。



栄養を追い求めて せ「選ばれる病院」に



人工呼吸器の患者さまの 受け入れにいち早く対応

人工呼吸器ケア検討委員会は、2カ月の準備期間を経て、今年4月にスタートしました。当院は5年前から人工呼吸器装着の患者さまを積極的に受け入れ、現在は167床のうち90床が人工呼吸器対応となっています。重度の方も受け入れていますが、現在まで人工呼吸器事故はゼロで、患者さまやご家族の方々の信頼

に応え続けています。

人工呼吸器装着の患者さまの増加を受けて、3年前に全病室にエアコンを完備。夏場に室温を上げる人工呼吸器特有の問題解消を図りました。同時に、各ベッドの枕元に非常用電源を引く工事とホイラー設備の入れ替えも行い、ハード面で療養環境を整えて安心感を高めました。

人と時間のやりくりで 一層のケア充実に着手

ハードの面だけでなくソフトの面でも、当院は各部門でさまざまな取り組みを行っています。長期入院となることが大半の人工呼吸器装着の患者さまからこ

そ、患者さまとご家族に少しでも在宅での暮らしのエッセンスをお届けし、入院生活の質を向上させたいと考えています。

ライラック病院 人工呼吸器ケアの一歩

口からの食事

鼻から栄養を摂っている患者さま。「口から食べたい」との要望でゼリーからスタートし、誤嚥がないかを言語聴覚士が毎回聴診器で確認。現在は昼食だけとろみのある刻み食を楽しまれています。



それを実現させるのは、現場の職員たちの工夫と努力です。口からの食事では食事中に看護師や言語聴覚士が、車いすへの移乗では看護師、介護員、理学療法士、臨床工学技士が患者さまに付きまますが、複数の職員を1カ所に集めるためには細かなタイ

札幌ライラック病院を受診される皆様にご協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝えください。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問してください。
3. 治療やケアの方針を決める時には、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加してください。
5. 院内では常熟的な社会人として行動して下さるようお願いいたします。
6. 札幌ライラック病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 札幌ライラック病院では、各階に意見箱を設置しています。ご意見やご希望がありましたら、ご遠慮なくご利用ください。



患者さまとご家族が望まれる入 職員が力を合わせ

「患者さまのため」を 原動力に重ねる努力

委員会では、個々の患者さまのケアをひとつひとつ検討。新たなケアを行う場合は、「誰がするのか」「実現を阻む要因は何か」「その解決方法は何か」など、いくつものハードルを話

ムシフトの調整が必要で。また、ケアを行う職員同士の情報共有も欠かせません。
「今以上にケアの質を高めるためには、定期的に多職種で工夫し話し合う場が必要だと考えました」と、本庄恭補院長は新委員会設置の理由を語ります。



本庄恭補院長



車いすでの院内散歩

週に1度、車いすに移乗して、ご家族と院内を散歩。臨床工学技士の手により人工呼吸器も車いすに移動。座位で体を動かしやすくなることから、30分間のリハビリも行っていきます。

し合いで乗り越え、理想のケア実現を目指します。
現場の負担増となってもチャレンジする職員の原動力は、「患者さまのためになっている」という実感です。地道な積み重ねで、患者さまやご家族が選んでくださる病院づくりを進めます。



医療法人北志会

基本理念

私たちは、地域における病院使命を果たすうえで、「安心・信頼・満足」を目指し、より良い医療サービス実践のため日々研鑽します。

基本方針

- 一、患者様の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を尊重します。
- 二、専門の医療を提供し、安心して療養に専念できる環境を整備します。
- 三、職員は、責任と誇りを持ち、日々創意工夫し、専門職としての使命を果たします。
- 四、在宅ケアと医療が連携し、チームとして地域住民の健康・保健・福祉に貢献します。

びょういんあーとぶろじえくと "silent breath" 上嶋秀俊展、開催中

アートとのコラボ
今年で8回目の開催

アート作品を病院内に展示する企画として、平成20年にスタートした「びょういんあーとぶろじえくと」。その第8回が6月23日(月)にスタートしました。今回は、昨年の第6回「庭で耳を澄まして」に参加されたアーティストの上嶋秀俊さんの作品が、再びロビーを飾ります。

上嶋さんは小樽在住で、道内はもちろん道外のコンベンなどでも精力的に活動されています。現在、本郷新記念札幌彫刻美術館(中央区宮の森)で開催中のシリーズ展「ニューフェイス」第2回「アワー・ブレイス」にも、作品が展示されています。



ちよつと不思議で
あたたかな空間

会期中の当院ロビーの壁面は、水滴のような、なにかのシルエットのような、さまざまなかたちの色鮮やかな作品に彩られ、ちよつと不思議な空間となっています。作家の手のぬくもりを感じさせる柔らかなタッチと淡い色合は、待合の患者さまの心を和ませてくれることとでしよう。

鑑賞時間は12時～18時。会期は年内いっぱいをご用意しています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

●「びょういんあーとぶろじえくと」公式サイト
<http://www.hinoma.com/hospitalart/>

「ん子防
とはヒロリ画

札幌ライラック病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重いたします。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名、検査結果、受ける処置やケアの内容について十分に説明が受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援します。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育を受けることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

内科、消化器内科、整形外科、神経内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科、麻酔科、リハビリテーション科

受付時間

平日 9:00～12:30 13:30～17:00
土曜 9:00～12:00 午後休診

※個別急患の方は上記に随時受付いたします。

面会時間 14:00～20:00

ホームページ <http://www.lilac.or.jp/>



医療法人 北志会

札幌ライラック病院

札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号
TEL(011)812-8822



デイケアの
ボランティアさん 募集中!

こんな活動をしてみませんか?

- ①お茶出しや食事の配膳の手伝い、お話し相手
- ②書道や絵手紙など趣味活動の講師役、特技の発表

活動時間 ①9:30～12:30 ②14:00～15:00

お問い合わせはデイケア・中田まで